

市長に報告

八学大男子ラグビー部 3年連続全国切符 悲願の初戦突破へ闘志

悲願の初戦突破へ、熊谷雄一八戸市長(中央)に意気込みを語った八学大の選手ら。17日、市庁



ラグビーの全国大学選手権(21日〜来年1月9日・東京都ほか)に、東北・北海道代表として3年連続で出場する八学大の選手らが破へ闘志を燃やした。市長を訪ね、悲願の初戦突破へ闘志を燃やした。八学大は今秋の東北地区

1部リーグ戦で全勝優勝。7日の北海道・東北地区代表決定戦では、札幌大を22-19で下し、4度目の全国大会出場を決めた。21日の初戦では、朝日大(岐阜)と対戦する。

市庁を訪れたのは工藤祐太郎監督、川崎拓朗主将(おいらせ町出身、三農高出)、佐々木勝哉副主将ら。

川崎主将は「多くの応援を力に、目標の『全国1勝』をつかめるよう頑張る」と決意を披露。初戦は2019年に苦杯をなめた相手でもあり、熊谷市長は「われわれも八戸から応援している。ぜひ2年前の雪辱を果たして」とエールを送った。

リーグ戦前には新型コロナウイルス感染者が発生するなど、思うように調整できなかった同大。工藤監督は取材に「合宿や練習試合など実戦の場がないまま、ぶっつけて臨んだ本番だったが、選手たちが勝負強さを発揮してくれた」とメンバーをたたえた。(林泰輔)